



西尾いきものふれあいの里だより

6月号

2024.6.1 発行

さとやま

6月の里といきもの



今年の5月もここ数年のように気温が高く、夏日を記録する日もありました。後半は、梅雨前線や台風の影響もあり、ぐずついた天気の日が増えました。6月は太平洋高気圧の張り出しが弱いため、梅雨前線の北上が平年より遅く、梅雨入りは平年より遅くなると予想されています。里の菖蒲園に咲くハナショウブを見て歩くことができる日も、多くなることでしょう。

そんな里では、様々な蝶の姿が見られます。その中でも、よく目にするシロチョウ科のなかまたちをご紹介します。

モンシロチョウ

日本全土に広く分布している蝶です。日当たりのよい開けた場所を好みます。幼虫はキャベツやダイコンなどアブラナ科の植物を食べ、年に5～6回世代を繰り返します。

もともと日本にはモンシロチョウはおらず、ダイコンの栽培とともに渡来したと考えられています。



オスは前翅の黒い部分が小さく、全体的に黄色っぽく。メスは前翅の黒い部分が多く、前翅のつけ根が灰色をしています。

左の写真は上が雄、下が雌です。蝶の仲間たちのメスは、一度交尾すると他の雄とは交尾しないものが多く、いろいろな種類でこのように腹部を立てて交尾を拒否する様子が見られます。



里では、他にも白っぽい蝶が見られることがあります。

モンキチョウ



モンシロチョウと同じくらいの大きさです。雄は黄色いですが、雌は白っぽいものがあり、モンシロチョウと間違えることがあります。後翅の大きな紋で見分けることができます。

年2回発生し、幼虫はシロツメクサやゲンゲなどのマメ科の植物を食べます。幼虫の状態で越冬するので、春は蛹で越冬するモンシロチョウより少し遅れて姿が見られるようになります。里ではそれほど数は多くありません。

ところで、よくモンキチョウと勘違いされている蝶があります。

キタキチョウ



モンキチョウより小さめで、黄色の翅を持っています。雌は雄より色が薄いです。成虫で越冬するため、冬の暖かい日にも飛んでいることがあります。

幼虫はネムノキやハギ類などのマメ科の植物を食べ、年に5～6回世代を繰り返します。里ではクサネムを食べ、秋に大発生することがあります。

以前は黄色い蝶をキチョウと呼んでいたのですが、九州より北にいるものは、南にいるキチョウとは異なることが分かり、キタ（北）が付くようになりました。

蝶の仲間の雄は、写真のように地面に降りて、吸水する様子がよく見られます。体温調節や水に溶けたミネラル分を摂取するためといわれています。

こんな身近な蝶たち、お天気が良ければきっと出逢えると思います。ぜひ探してみてください。

6月はこんな生きものも見られます

里全体の湿った日陰では、**ドクダミ**が群生して花をつけます。中心の穂状の部分は、小さな花の集まりで、1つ1つの花は花弁やがくがなく、めしべ1本とおしべ3本でできています。白い花弁のように見えるものは、葉が変化した総苞です。名に「ドク」とありますが、毒はありません。古くから民間薬として利用され、10の薬効があると言われ、十薬（じゅうやく）と呼ばれています。独特のにおいがありますが慣れれば癖になるようで、どくだみ茶や食用として利用されることもあります。

センター裏のエアコンの室外機の近くには絶滅が危惧されている**キクガラクサ**が花をつけます。葉がキクの葉に似て、唐草模様を思わせることが名の由来です。

田んぼエリアなどでは、**キキョウソウ**の青紫色のよく目立つ花が咲いています、**キキョウ科**に分類される1年草で、アメリカ原産の外来種です。**キキョウ**によく似た小さな花が茎の下から上に順に咲いていきます。



里のあちこちにある、新芽が赤く、葉がカシワのように大きくなることから名がついた**アカメガシワ**は、枝の先に小さな花をたくさんつけます。雌雄異株で、まず雄株に黄色の雄しべが目立つ雄花が咲き、少し遅れて雌株に赤い雌しべが目立つ雌花が咲きます。

早春に花をつけた木では、もう実が熟したものもあります。トンボの里付近や万灯山では、**ウスノキ**がその名の由来である赤い臼の形の実を、万灯山では**コバノガマズミ**がやはり赤く小さな卵球型の実をつけます。どちらも食べることができます。

トンボの里や万灯山エリアでは、秋に紫の実がなる**ムラサキシキブ**のかわいい花が見られます。また万灯山エリアの桜並木や野鳥の森では、**アジサイ**によく似た**イワガラミ**の白い花が、絡みついた木の上で咲いています。

また長円寺では、強い芳香を放つ、葉のようなへら型の苞から伸びた花柄に、いくつかの花をつける変わった咲き方の**ボダイジュ**の花を見ることができます。



梅雨の晴れ間、こんないきものたちを探して、里を散策してみましょう。

5 月の行事紹介



「野鳥のさえずりを聞いてみよう」を5月12日(日)に開催しました。

初めに双眼鏡・望遠鏡の取り扱い方の説明を受け、緑あふれる春の里山へ探鳥に出発しました。望遠鏡に「入りました」鳥を参加者で順番に見たり、見つけた鳥や鳴き声はその場で講師から解説を受け、鳥の見つけ方や鳴き声の覚え方などが分かるようになり、とても楽しい時間となりました。

6 月の行事予定

2日(日)	そのへんの草で、 冠、お雛様、笛など作りましょう	20名	AM 9:30~11:30	河江喜久代
-------	-----------------------------	-----	---------------	-------

内容 ~里山を散策しながら、シロツメクサ、ツバキの葉などを採集して、花冠、笛など作って遊びます。
昔懐かしい楽しい遊び。大人だけの参加 大歓迎です！

15日(土)	草木染にチャレンジ!!	20名	AM 9:30~11:30	磯貝はるみ
--------	-------------	-----	---------------	-------

内容 ~日本で昔から行われてきた草木染。
身近な草木を用いて、伝統文化に触れるとともに、植物の持つ色を楽しんでみましょう。

7 月の行事予定

21日(日)	梅雨時のキノコを観察しよう	20名	AM 9:30~11:30	石川まゆみ
--------	---------------	-----	---------------	-------

内容 ~ 梅雨時は、湿気があるので身近な所でもキノコを見つけやすい季節です。
里山を散策し、梅雨時だからこそ見られるキノコを探して観察してみよう。

28日(日)	夏の昆虫を探そう	30名	AM 9:30~11:30	当園職員
--------	----------	-----	---------------	------

- 内容 ~里山の自然の中を散策しながら、どんな昆虫がいるか探します。
カブトムシやクワガタなどの昆虫の探し方やつかみ方を実践します。
トンボやアゲハチョウなど実際にタモを使って採取し、観察した後、自然に戻します。
- ◇ **参加受付**は、各講座3週間前の午前8時30分から先着順に受け付け、来園、または電話受付し、お申込みは本人、もしくはその同居家族までとします。なお、申込者が**4名以下の場合**は開講しません。
 - ◇ **参加申込者**は傷害保険に加入するため、小学生以上の方とします。なお、小さいお子さまをお連れいただいても構いませんが「見学扱い」とし、傷害保険の加入はありません。
 - ◇ **当日の天候により**、講座の中止・延期、または講座の内容を変更する場合があります。
 - ◇ 原則、**参加費は無料**ですが、講座により**材料費は実費**を申し受けます。[講師に直接払う]
 - ◇ **各講座の詳細な内容**については、直接ネイチャーセンターにご確認ください。

西尾いきものふれあいの里ネイチャーセンター

- ◆ところ 〒445-0031 愛知県西尾市家武町小草3番地 Tel・Fax 0563-52-0266
- ◆休日 毎週月曜日・祝日の翌日・年末年始[12/28~1/4] ◆発行 西尾市環境部 環境保全課